

令和4年度第3回長井市振興審議会 議事録

開催日時：令和4年12月5日（月） 14時30分～16時30分

開催場所：長井市役所 庁議室

出席者：23名（委員10名、事務局13名）

■振興審議会委員 遠藤倫夫委員、寒河江忠委員、渡部政明委員、加藤眞佐夫委員、蒲生直樹委員、梅津壮一郎委員、小林美和子委員、梅村律子委員、土屋智代委員、長沼真知子委員

（出席10名、欠席8名）

■事務局 齋藤環樹副市長、土屋正人教育長、青木邦博技監、新野弘明総務参事、梅津義徳厚生参事、赤間茂樹産業参事、小林克人建設参事、三瓶仁之総務課長、佐藤秀人教育総務課長

総合政策課 渡邊恵子課長、鈴木政輝主任、安部惇士主任、四釜

傍聴者：無し

【次第】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 報 告
 - （1）第六次総合計画の検討状況報告（資料1）
 - （2）市民アンケートの結果について（資料2）
- 4 協 議
 - （1）第六次総合計画の骨格（案）について（資料3）
 - （2）第六次総合計画の将来像について（資料4）
- 5 その他
- 6 閉 会

【議事録】

- 1 開 会
- 2 あいさつ

○齋藤環樹 副市長

本日は、お忙しいところお集まりいただき、感謝申し上げます。現在長井市では第六次総合計画の策定に向けて、6月の市全体でのワークショップを皮切りに市内6地区でワークショップを開催しており、市民の皆様から様々ご意見をいただいている。来年の1月末までに全てのワークショップを終える見込みとなり、いただいたご意見を整理し、今後の策定準備の中で反映させていきたいと考えている。

前回の振興審議会では、第五次総合計画の総括や第六次総合計画策定の取り組みの状況等について報告させていただいた。本日の会議では、第六次総合計画の検討状況や令和4年度市民アンケートの結果について報告するとともに、第六次総合計画の基本構想の骨格（案）についてご説明させていただく。

本年度中に将来像の案をとりまとめるにあたり、将来像を形作るためのキーワード（案）についてもご説明させていただく。ぜひ活発なご意見を賜りたい。

3 報 告 [座長＝加藤委員（会長職務代理者）]

（１） 第六次総合計画の検討状況報告

説明に先立って、事務局より第五次総合計画の総括に係わってコメント票でいただいた意見と対応を報告した（当日配布資料）。

その後、資料１に沿って事務局から説明。

（梅村委員）

市民まちづくりワークショップに娘が参加している。感想を聞くとよく分からないまま参加しているようだ。

（総合政策課長）

市民まちづくりワークショップについては、先ほど説明したとおり既に第１回～第４回を終えており、残すところあと１回。主に長井市の課題や良さについて、グループごとに話す場を設けている。第六次総合計画の策定に向けて市民の方々のご意見を取り入れる場という目的ではあるが、市民の方が長井市について考えるきっかけにしたいという意図もある。参加いただいた市民の方々からは、職員も気づかない視点からのご意見をいただいている。

よく分からないまま参加いただいていたのは、こちらの説明不足で大変申し訳ない。第五回の市民まちづくりワークショップは総括の回であるので、しっかり説明した上でまとめを行っていきたい。

（２） 市民アンケートの結果について

資料２に沿って、事務局から説明。

【資料訂正】

資料２のＰ１０「一方で、「生きがい」はＲ２までやや減少の傾向が続いており、誰もが居場所と役割が持てる持続可能なまちづくりへの取り組みが必要となっている。」の部分が、令和２年度までの内容になっていたが、引き続き取り組みが必要という部分は共通と考えている。

（梅津委員）

感想として、年代が下がるにつれて回答率が減少しているのは残念。若い人にも市政についての認識を持ってもらい、若い人の回答が増えると良いと思う。

世代間でアンケートの結果にギャップがあったところがあれば教えてほしい。

（総合政策課長）

若い人のアンケート回収率が低かったのはその通り。アンケートは２０歳以上の長井市民から年代ごとに抽出している。回収率向上の何らかの手立てを今後考えていく。

（事務局）

市民アンケートの報告書Ｐ２６を開いていただきたい。「あなたは幸せだと思いますか」という問いに対し、２０代では「大いに思う」「やや思う」と答えた人の割合が各年代で最も高いが、３０代で急激に割合が下がり、４０代以降でまた割合が上がっている。こういった世代間で差がついている点について、今後分析が必要だと考えている。

（土屋委員）

今回は回収率４０％だが、以前のアンケートの回収率はどの程度か。

若い人のアンケート回収率が悪いとのこと。一般の企業のアンケートでは回答するとちょっとしたお礼の品があるが、市・県からのアンケートは無いことがほとんど。先日、長井市の他課のアンケートで、菜なポートで使える券（１５０円分）がついており進歩したと感じた。物価高の時世で主婦としては１５０円の商品券はありがたい。アンケート回収が菜なポートでできるので郵送代がかからず、更に買い物にも来てもらえるので、とても良いと感じた。アンケートの回答をインターネット又は郵送とするだけでなく、何か付加価値をつけたり市の宣伝をしたり、時代に沿ったもの

にしてはどうか。今までと同じではどんどん回収率が下がるのではないかと。忙しくても、アンケート回答で何かもらえるのであれば、比較的女性は回答するものだと思う。

市民アンケート調査は7月だが、その後物価が高騰した。アンケートの中に暮らしの項目があるが、灯油代等も値上がりし家計は厳しいと感じるため、今の市民の暮らしとずれている部分が出ているのではないかと。

(事務局)

市民アンケートの回収率は、前回の令和2年が41.7%、前々回の平成30年が44.3%と50%をやや下回る数値で推移している。回収率が下がってきているので、テコ入れしなければならない部分と感じている。

また、アンケート回収率40%では実際の市民の心情と違っているのではと思うかもしれない。報告書P1をご覧くださいと標本誤差を掲載させていただいており、アンケート回収率40%だと市民全員を対象とした場合と統計学上どのくらいの誤差があるかというもの。統計学上であれば95%以上の信頼度が確保できるデータということで利用していきたいと考えている。

(総合政策課長)

気持ちばかりだが、令和4年度の市民アンケートにはクリアファイルを同封させていただいた。一方で、「アンケート回答は市民の義務だと思っているので、謝礼は無くても答えなければならない」というご意見も市民の方からいただいた。色々な考え方があると思うので、若い方に回答していただくためにどうしたら良いか謝礼等含めて検討していく。

アンケートの回収後、8月に水害があったり物価が高騰したりと様々な社会的環境の変化があった。しかし、災害等先々のことは分からず、どこかに基準を設けなければならない。市民アンケート自体は2年に1回行っているため、実施時期についてはご了承いただきたい。

(加藤委員)

個人的な意見だが、独身の方が非常に多いと感じている。結婚で所得への好影響があれば幸せだと感じる方も増えるのでは。幸せや生きがい、人口減少の歯止めといったことにもつながるので、何かあったら市でも考えていただきたい。

4 協 議

(1) 第六次総合計画の骨格(案)について

資料3-1、3-2、3-3に沿って、事務局から説明。

(渡部委員)

資料3-1について、持続可能なコミュニティの中に「コミュニティビジネスによる収益確保」とある。具体的にどういったものか。

(総務参事)

例としては、致芳地区・豊田地区の有償の除雪ボランティアや伊佐沢地区の買い物支援、致芳地区のALL致芳市など。

(渡部委員)

個人の収益とコミセンの収益のどちらのことを指すのか。

(総務参事)

両方と考えている。例に挙げた有償の除雪ボランティアはコミセンが事務局になっており、コミセンの収益につながる。ALL致芳市は現時点では出店料を取っていないので、個人の収益となっている。

(小林委員)

資料３－１について、生活を豊かにするコミュニティの中に「地域における清掃活動」とある。他に比べて具体的に記載されているのは何故か。

資料３－２について、インクルーシブや SDGs 等これからの時代を先取りする内容が書かれていてとても良いが、１点、「自然との共生」の視点を追加してほしい。市民アンケートを見ると、住み続けたい理由の上位に「自然環境が良い」と「水がおいしい」がある。現状に満足しているということではあるが、DX 等新たな取り組みの中で「市民が大切に思っている自然環境を今一度大事にしながらまちづくりを進めていく」という視点が新しい総合計画に盛り込まれると良いと思う。具体的には、「市民にとって最適なまちをつくる【共創】」に分類されるかと思う。農林業の発展、観光の進展の上でも自然環境の保全は欠くことができないものであり、いずれ雇用の創出に結びつく可能性もあると思う。

これまでのまちづくりで取り組んできた「循環」という視点も残してほしい。レインボープランを推進してきた長井市としては、資源の循環・人の循環・まちとむらの循環と色々なところで掘り所にしてきた。この視点が生かされることで長井市のこれからの取り組みが素晴らしいものになると思う。市民が取り組んできたこの視点を総合計画に盛り込みながら SDGs につなげていただきたい。

(事務局)

資料３－１について、重要課題を絞り込むにあたって、事務局の専門部会でワークショップを行った。資料３－２下部の１０年後の未来予測を踏まえて、望ましい姿に至るために必要な取り組みを考え、重要だと思うもの・重点的に取り組む必要があるものを投票形式で絞り込んだ。そういった経過があり、事務局専門部会で出た文言を資料内で使っていた。ご指摘を踏まえ、他の記載と整合がとれるように、資料の見せ方を検討する。

(総合政策課長)

各地区ワークショップでも、長井市の良いところとして全ての地区で「自然」「水」が挙げられており、「自然環境」という視点を今後盛り込んでいくことは重要だと感じている。「循環」という視点も SDGs の達成を目指す上で必要だと考えている。後ほど議題に挙げる将来像のキーワードにも取り入れていく中身だと思う。

(小林委員)

今ある当たり前のものが将来必ずあるとは限らないため、改めて市民皆で認識していくことが必要だと思う。

(遠藤委員)

骨格（案）の考え方について、資料はどこまで公開するのか。資料３－１に「地域の伝統・芸能を大切にした教育」「学校とコミュニティの関係の再構築」とある。芸能というと獅子踊りや念仏踊りがイメージされているかと思うが、それを大切にした教育と非常に限定的な言い方がされている。各学校では地域と協力しながら実際に取り組んでいるが、一方で学校の大きな負担という面もある。芸能という分野に特定されてしまうと、学校の教育が制限され枠の中にはめられてしまう。資料３－２にはこの文言が記載されていないので、例としてならば良いと思う。

また、「学校とコミュニティの関係の再構築」は、学校とコミュニティがともに責任を分かち合っ
て一体となって学校づくりをしていく・地域づくりに学校も参画していくという考え方がある。再構築という表現が分かりにくいと思うので、「学校とコミュニティの協働の推進」など、共に進むというニュアンスに修正してほしい。

(事務局)

後日、議会には現状報告として本日の資料を修正したものを提示するが、市民に広く知らせる段階ではないと考えている。本日の資料はたたき台のようなものであり、いただいたご意見を落とし込んで、計画の方向性を作っていく。今年度将来像のイメージを作り、具体的な取り組みは来年度固めていきたい。

(総合政策課長)

本日欠席の鷺見委員に予めご意見いただいたため、ご紹介する。「行政主導でなく、行政と民間の両輪で長井市の将来に向けて取り組んでいくというのが六次総の中で見えるようになると良い」とご意見いただいた。

市民の意見を取り入れた計画ということが分かるようにしていきたい。

(長沼委員)

小林委員の意見に共感した。水は自身の仕事にも関わることであり、大事なもの。長井の水があっての自社の酒なので、水は強調してほしいと思う。子ども達にも、長井の水が美味しいのは当たり前ではない、特別なことだと知ってもらいたい。

長井小学校でも1学年100人を下回るのが当たり前になり、子どもが少なくなって悲しいと感じる。一方で、人数が少ないからこそ一人一人に目を向け教育を強化していただけたらと思う。

(教育長)

委員が仰る通り児童数は減少しており、中には1学年10人前後の中で教育をしていかなければならない学校もある。これからの学校を考えた時に、規模もだが、一人一人に目を向けて、その子に合った教育をするという転換期を迎えていると考えている。そういった意図も含めて「インクルージョン」という理念の下、施策を考えているとご理解いただきたい。

(寒河江委員)

関東方面からの来客をどこか連れていくとなると、飯豊町や白鷹町といった田舎らしいところになる。都会の人は田舎らしい、古いところを好む傾向があるので、昔ながらの田舎が残る部分があっても良いと思う。田舎の魅力になって、外部から人に来てもらえるのではないかな。

資料3-2に「文化活動への支援」とある。長井にも活発に活動している人は結構いる。川西町では故井上ひさし氏の提唱で「生活者大学校」というものを開催している。そういった文化人との交流の場・座学の間という支援の形もあるのではないかな。新しいことにも田舎らしいことにも目を向けて取り上げていくことが必要だと感じる。

(総合政策課長)

市民アンケートでは、「自身の地区にはアパートもコンビニも無い、だから地域の結束が強く、地区の魅力だ」と回答された方もいた。田舎らしさという点が共通だと感じ、紹介させていただく。

(産業参事)

文化活動への支援の前に話題に出ていた「自然環境」について、長井市の水による生活文化や生業は重要文化的景観の取り組みの中で活用していきたいと考えている。アルカディア観光局では、はじめに「日本最強のローカル」というビジョンを設定した。今あるものをどのように残し、どのように活用するかを考えているが、あるものをそのまま観光商品にするのは難しい。普通に生活はできているが、観光客に喜んでもらえる商品にするためにどうしたらよいか考えている。

文化活動の支援について、これまで「文化」は産業部門で考えてこなかった。長井市には様々な文化団体があり素晴らしい活動をしている。「文化の継承・伝達」も含めて、活用という視点で産業部門のところに記載している。例えば、あやめまつりの時期に文教の杜では「あやめ大華展」を開催している。同じ時期に開催することで、あやめまつりに来た方が文教の杜にも足を運び、長井の舟運文化・成り立ちを知ることにつながる。長井市民が伝えてきた文化を長井市の宝となるような生かし方をしていきたいということで、そのような書き方をしている。

(遠藤委員)

伝統産業である長井紬の展望について、長井市でどのように考えているか。明治から大正、昭和の初めまでは長井の基幹産業だったが、今は残っているところが工夫している。伝統産業について、どういう方向で行くのか。

(産業参事)

伝統産業に光を当てていくことは非常に大切だと思っており、長井市は全国シルクのまちづくり

市区町村協議会にも加盟している。残念ながら長井紬の需要がなかなか伸びず、生産も減少という現状になっている。長井紬は現在主に2カ所で生産されており、生地を使った小物づくりやふるさと納税の返礼品（反物）等に取り組んできた。もう少し違う観点で長井紬を残す取り組みをしていかなければならないと感じているため、それも今後の課題として受け止めさせていただきたい。

（小林委員）

市民協働を徹底していくために、市民参画については、市民が自分事にできるような表現に工夫をお願いする。市民アンケートでは「地域に貢献している」と回答した割合が低い、今の例を聞くとあやめの華展に出品したことが観光振興になっており、地域に貢献していると意識していない方が多いのではないかと。自分も地域に貢献できているという気づきと生きがいにつながると思うので、市民が当事者感覚を得られるような総合計画にしてほしい。

（梅村委員）

どこの産地でも伝統産業は衰退しており、綿屋・糸屋も減少し、需要と供給がどんどん駄目になっている。また、着物を専門的に縫っている人も減り、お祭りの衣装を縫う人がいなくなっている。衣装まで含めて、文化であるという考え方が必要だと思う。

資料3-1に「商店街に訪れたいまちづくり」とある。自身の店舗では、都会的な商品・インポートの商品も扱っているが、長井でこんな商品が買えるのかと驚かれることもある。伝統的なものとどちらも扱っていかないといけないと感じている。にぎわいづくりはバラエティだと思うので、文化的なものも物珍しいものも、たくさんの需要に答えられることが必要だと感じる。

（2）第六次総合計画の将来像についてについて

資料4に沿って、事務局から説明。また、驚見委員から「市外の人と話していると長井市のキーワードは「水」だと感じる。将来像のキーワードと「水」を組み合わせ、市民にも分かりやすく長すぎないキャッチフレーズを考えていけると良い」とご意見いただいた旨を紹介した。

（総合政策課長）

先ほど小林委員からあった「自然」「循環」のように、キーワードがあればご意見いただきたい。参考までに紹介すると、現在の将来像は「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井 〜人にぎわい 心かよう 水のふるさと〜」となっている。

（小林委員）

「水と緑と花のながい」が焼き付いている。子どもから大人まで分かり易いと思う。

（蒲生委員）

計画のポイントとなるとどうしても現状の課題の洗い出しになるが、大事なことは長井らしさ。長井の良さを伸ばして維持していかなければならない。そういう点で見ると「水と緑と花のながい」は的確に言い当てていると思う。小さい頃から「こういうまちだね」と認識することはとても大事なことで、新しい課題の洗い出しも大事だが、長井らしさをどう受け継いでいくかも大事にしてほしい。

（加藤委員）

骨格（案）を見ると人が減ることが前提になっているが、我々は実際増やそうとしている。そういう人材・食べていける仕事を作りだしていかなければならない。

5 その他

事務局より、後日コメント票をお送りする旨を伝えた。

6 閉 会